


B 本時の授業の実際と研究協議の内容

1 本時の授業記録

授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
<p style="text-align: center;">1 鉄棒遊びをした時のことを思い出す。</p> <p>T：「今日は、みんなに見てもらいたいものがあります。」 ～黒板に写真を貼る～</p> <p>T：「何をしているところですか。」</p> <p>T：「何の技ですか。」</p> <p>T：「こっちも見てもらおうかな。」 ～鉄棒遊びをしている動画を流す～</p> <p>T：「これを見て、お友達はどのような技をしていましたか。」</p> <p>T：「みんな逆上がりできるかな。」</p> <p>T：「できる技もあれば、ちょっと難しい技もあるかな。」</p> <p>T：「今日は鉄棒が出てくるお話を通して、いろいろ考えてみます。」</p>	<p>C：「鉄棒。」</p> <p>C：「逆上がり。」</p> <p>C：「あざらし。」</p> <p>C：動画を見て楽しそうな反応</p> <p>C：「前まわり。」</p> <p>C：「逆上がり。」</p> <p>C：「できる。」</p> <p>C：「できない。」</p>
<p style="text-align: center;">2 「さかあがりできたよ」の紙芝居を読んで聞かせる。</p> <p>～教材文を紙芝居にして児童に読み聞かせをする～</p> <div style="text-align: center;">  </div>	
<p style="text-align: center;">3 登場人物の心情に着目して話し合う。</p> <p>T：「静かに、ぶつからないようにしながら席に戻ってください。」</p> <p>T：「となりのみほちゃんが、上手に逆上がりをしていたのよね。」</p> <p>T：「自分もできるようにしたいなと思ったんだね。」</p>	<p>C：席に戻る。</p> <p>C：「自分もやりたくなった。」</p>

T : 「だけど、回れたの？」

T : 「先生に手伝ってもらったら回れたけれど、自分一人では？」

T : 「一人で回れなかったとき、私はどんな思いで練習していたのかな。」

T : 「なんで自慢したいの？」

～これまでの児童の発問を板書する～

T : 「そのときの心の高さは、黒板の高さで表すとどれくらいですか。」

T : 「頑張ろうって気持ちもあるけれど、ちょっと悔しいな、不安だなんていう気持ちもあるよね。」

T : 「一人で回れなくて、夏休みも練習したんだね。暑いよね？なんで？」

T : 「練習したら、膝の少し上に届くようになってきましたね。この時、私はどんなことを思っていたか、ワークシートに書いてもらいたいと思います。」

～ワークシート配布～

T : 「書いたらお隣さんと交換して交流してもらいたいと思います。」

～机間指導～

T : 「書いたものをお隣さんと読み合ひましょう。終わったら前を向いて待っていてください。」

T : 「みんなそろそろ終わったかな。では、発表してもらいます。」

C : 「先生に手伝ってもらえたら回れた。」

C : 「回れなかった。」

C : 「早く回れるようになりたい。」

C : 「みんなができたのだから、自分もできると思った。」

C : 「なんで自分はできないのだろうと思った。できないから不安。」

C : 「練習してできるようにになりたい。」

C : 「自分はできないから悔しい。」

C : 「できない人に自慢したい。」

C : 「教えてあげたいから。」

C : 「真ん中。」

C : 「真ん中より少し上。」

C : 「できるようにになりたいからやっている。」

C : ワークシートに記入



C : 隣の児童と考えを読み合う。

C : 「もう少しでできるようになる。できるようになったらみんなに教えたい。」

C : 「早くできるようにになりたい。みんなに早く見せたい。」

C : 「あと少しでできそうだから、できるようになったらみんなに見てもらいたい。」

C : 「やっと膝の上まで上がったから、この

T : 「もうじき、できるようになりたいってこと？」

T : 「少しみんなが羨ましいってことだね。」

T : 「みんなの気持ちをまとめると、できていいな、羨ましいという気持ちもあるけれど、あと少し、最後まで諦めないで頑張ろうという気持ちも出てきた。」

T : 「その時の心の高さはどのくらいかな。」

T : 「その調子で夏休み練習していたら？」

T : 「何回もできるようになったんだよね。」

T : 「では何回もできた時の私は、どのような気持ちだったのかな？」



T : 「もし諦めちゃったら？」

T : 「練習を続けてなかったらできなかったから、諦めないでやってよかった。諦めないでやってよかったから、またこれからも続けていこうと思ったんだね。」

T : 「ではこの時の心の高さは？」

T : 「心の動きをつなげてみると、こんな上。」

T : 「なんで心の動きがこんな風になったの？」

T : 「続けるとか、諦めないとかという気持ちがあったから心が一番上になったんだね。」

調子でやっていこう。」

C : 「あと1回でできる。」

C : 「もうすぐできるっていうこと。」

C : 「みんなできていいなあ。」

C : 「やっぱり難しい。最後まで諦めないで頑張ろう。」

C : 「いいね。」(拍手)

C : 「上から半分くらい。」

C : 「もう少し上。」

C : 「できるようになった。」

C : 「やった。できるようになった。」

C : 「できるようになって嬉しいな。」

C : 「やっとできたから夏休みが終わったらみんなに見せたい。」

C : 「夏休みが終わったらできない友達に教えてあげよう。」

C : 拍手

C : 「何回もできてうれしいな。ママにも褒められて嬉しいな。」

C : 「諦めないでやってよかった。」

C : 「これからも続けて、もっと上手になろう。」

C : 「できなかった。」

C : 「一番上。」

C : 「もっと上。」

C : 「天井。」

C : 「練習を続けたから。」

C : 「諦めなかったから。」

4 自分の生活を振り返って考える。



T : 「みんなはどうですか。こういうことある？」

T : 「Aさんは、『わたし』みたいに、諦めずに取り組んだことはありますか？」

T : 「『わたし』のように、最後まで頑張ってよかったことをワークシートに書いてください。その時の様子も書いてくれると嬉しいな。」

～机間指導～

T : 「では、発表してください。」

T : 「これからどうする？」

T : 「どんな字を書きたい？」

T : 「他にもあるかな？」

T : 「みんなが頑張ったことは、後で見させてください。」

5 教師の説話を聞く。

T : 「先生のお話を聞いてください。しゅうとくんという子のお話です。バレーボールを上手になるためにジャンプを毎日練習していました。立ち幅跳びで、5年生の時に200cm、6年生の時に270cm跳べました。しゅうとくんは、背が低かったけれど、毎日練習して遠くまで跳べるようになりました。練習して、バレーボールの大会で去年は準優勝。今も続けていて、頑張ったから都の選抜にも選ばれました。しゅうとくんは、バレーだけではなく勉強も、当番も、宿題も頑張っていました。先生が、一生忘れられないのは、あきらめずに頑張っている子だからです。」

C : 「ある。」

C : 「逆上がりじゃないけど、鉄棒で毎日ちよつとずつやることができるようになった。」

C : それぞれ集中して書く。

C : 「スケートを週6回練習したら上手になって、お母さんに褒められた。」

C : 「アクセルまでできるようになりたい。」

C : 「いっぱい練習する。」

C : 「習字が上手になった。」

C : 「もっと上手になりたい。」

C : 「空手の型を毎日練習したら上手になって、試験に受かった。」

<板書の実際>

